

第6調

「スポタ」の大晩課

「主よ、爾に籲ぶ」に十句を立てて主日の左の讃頌を歌ふ、第六調。

句、我が靈を獄より引き出して、我に爾の名を讃榮せしめ給へ。
地獄に勝つハリストスよ、爾は十字架に上れり、死者の中に自由なる者、己の光より生命を流す者として、死の幽暗に坐する者を己と偕に復活せしめん爲なり。全能の救世主よ、我等を憐み給へ。

句、爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。
今ハリストスは死を滅して、嘗て言ひし如く復活し、世界に歡喜を賜へり、我等皆籲びて斯く歌はん爲なり、生命の泉、近づき難き光、全能の救世主よ、我等を憐み給へ。

句、主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聴き給へ。
主よ、我等罪人何處に爾悉くの造物に居る者を避けん、天には爾親ら住む、地獄には爾死を滅せり、海の深處に入らんか、主宰よ、彼處には爾の手あり。我等爾に趨り付き、爾に伏拜して禱る、死より復活せし主よ、我等を憐み給へ。

又讃頌、アナトリイの作。同調。

句、願はくは爾の耳は我が禱の聲を聴き納れん。
ハリストスよ、我等爾の十字架を以て誇と爲し、爾の復活を歌ひて崇め讃む、爾は我等の神にして、我等爾の外に他の神を識らざればなり。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。
我等常に主を崇め讃めて、彼の復活を歌ふ、其十字架を忍びて死を以て死を滅ししに因る。

第六調 「スポタ」の大晩課 二五五
第六調 「スポタ」の大晩課 二五六

句、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を待む。
主よ、光榮は爾の力に歸す、蓋爾は死の權を有つ者を空しくし、爾の十字架を以て我等を新にして、我等に生命と不朽とを賜へり。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。
主よ、爾の葬は地獄の桎梏を壊り、死よりの復活は世界を照せり。主よ、光榮は爾に歸す。

又生神女の讃頌、アモレイのパワエルの作。第三調。

句、願はくはイズライリは主を恃まん、蓋隣は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其悉くの不法より贖はん。
至りて無玷なる童貞女よ、我が體の劣弱、靈の苦惱、心の憂愁を見て、我に神聖なる眷顧を得しめ給へ。祈る、爾の熱切なる祈禱を以て我を救ひ給へ。

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。
女宰よ、我諸罪を以て衆人に超えたり。祈る、潔き童貞女よ、其多きを潔めて、爾の子及び神の將來の審判に於て我に慈憐を蒙むるを得しめ給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

いさぎよ もの われなんじ よ もの しょざい おお きよ なんじ きとう つるぎ もつ わ よく はげ
潔き者よ、我爾を呼ぶ者の諸罪の多きを潔めて、爾の祈祷の剣を以て我が慾の厲し
き動搖を斷ち給へ、我が信と愛とを以て爾の種なき産を歌はん爲なり。

光榮、今も、生神女讃詞。

しせい どうていじよ たれ なんじ いた きよ さん うた よ な
至聖なる童貞女よ、誰か爾を讚美せざらん、誰か爾の至りて淨き産を歌はざらん。世の無
き先に父より光る獨生の子は爾淨き者より言ひ難く身を取りて出で、本性の神は我等の爲
に本性の人と爲れり、其位一にして相分れず、其性二にして相失はず。淨くして至り
て福なる者よ、我が靈の憐を蒙らんことを彼に禱り給へ。

次ぎて「穩なる光」。提綱、「主は王たり」。其常例の如し。

挿句に主日の讚頌、第六調。

きゆうせいしゅ しょてんし てん おい なんじ ふっかつ うた われら ち おい いさぎよ ころも つ
ハリストス救世主よ、諸天使は天に於て爾の復活を歌ふ。我等にも地に於て潔き心を以
て爾を讚榮するに堪へさせ給へ。

他の讚頌

しゅ おう かれ いげん き
句、主は王たり、彼は威嚴を衣たり。
なんじ ぜんのう かみ あかがね もん やぶ じごく はしら くじ おちい ひと やから
爾は全能の神たるに因りて、銅の門を破り、地獄の柱を折きて、陥りたる人の族を
復活せしめ給へり。故に我等も同心に呼ぶ、死より復活せし主よ、光榮は爾に歸す。

第六調 「スポタ」の大晩課 二五七

第六調 「スポタ」の大晩課 二五八

句、故に世界は堅固にして動かざらん。

けいこうじよ なみだ とち かれ たず な い かな かなしゅうじん きゆうせいしゅ いか なんじ はか
ハリストスは我等の古の朽壤を改めんと欲して、十字架に釘せられ、墓に置かれたり。
攜香女は涙と共に彼を尋ねて、泣きて曰へり、哀しい哉衆人の救世主よ、如何に爾は墓
に居るを甘じたる、居るを甘じて如何に盗まれたる、如何に移されたる、何の處か爾
の生命を施す肉體を匿したる、然れども主宰よ、爾が約せし如く、我等に現れて、我等
の涕泣を慰め給へ。斯く泣ける時天使彼等と呼べり、涙を止めて使徒に告げよ、主は復活
して、世界に潔淨と大なる憐を賜へり。

句、主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

ハリストスよ、爾は欲せし如く十字架に釘せられ、爾の葬にて死を虜にし、神とし
て三日目に光榮を以て復活して、世界に終なき生命と大なる憐を賜へり。

光榮、今も、生神女讃詞。

しじょう もの われ ぞうせいしや およ しょざいしや しゅ われ き なんじ たい い
至淨なる者よ、私の造成者及び贖罪者ハリストス主は、我を衣て、爾の胎より出でて、
アダムの初の罪より解き給へり。故に無玷の者よ、我等爾、實に神の母及び童貞女た
る者に黙さずして天使の如くに呼ぶ、慶べ、女宰、我等の靈の轉達、帡幪、及び拯救
よ、慶べ。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。聖三祝文。「天に在す」の後に、

主日の讚詞、第六調。

てんし ぐんなんじ はか あらわ ばんべい し もの ごと はか た なんじ いさぎよ からだ
天使の軍爾の墓に現れしに、番兵死せし者の如し、マリヤ墓に立ちて、爾の潔き體
を尋ねたり。爾は地獄に誘はれずして、地獄を虜にし、生命を賜ふ者として、處女に逢
ひ給へり。死より復活せし主よ、光榮は爾に歸す。

光榮、今も、生神女讃詞。

なんじ おんちよう こうむ もの おのれ はは な じゅう のぞみ もつ くるしみ ため きた たず
爾は恩寵を蒙れる者を己の母と名づけて、自由の望を以て苦の爲に來り、アダムの尋
ねんと欲して、十字架の上に輝きて、天使等に謂へり、我と共に喜べ、蓋失はれし金銭

は獲られたりと。智慧を以て萬事を治めし我等の神よ、光榮は爾に歸す。

次に發放詞。

~~~~~

第六調 「スポタ」の大晩課 二五九

第六調 「スポタ」の晩堂課 二六〇

「スポタ」の晩堂課

至聖なる生神女の規程、第六調。

第一歌頌

イルモス、イスライリは陸の如く淵を踏み渡り、追ひ詰めしファラオンの溺るるを見て呼べり、凱歌を神に奉らん。

附唱、至聖なる生神女よ、我等を救ひ給へ。

神の盡されぬ恩寵を有ち給ふ母、聘女ならぬ聘女よ、爾に趨り附く者を棄てずして、常に災禍及び憂患より救ひ給へ。

視よ、憂悶は我に及べり、至淨なる女宰よ、起ちて、我に援助の手を授け給へ、爾は世界を神聖なる樂に満てたればなり。

光榮

神の母よ、保護者として、爾の權能の眩耀を我艱難に圍まるる者に亟に予へて、我を其害より護り給へ。

今も

我が靈は死に瀕せり、我を憎む者は蝮の如く我を繞りて、誘惑を以て滅さんと欲す。生神女よ、親ら我を救ひ給へ。

第三歌頌

イルモス、我が口は我が敵に向ひて開けたり、我が心主に縁りて固められたればなり。

生神女よ、生命を生みし者として、諸罪に殺されし我が靈を活かし給へ。

生神女、我等の恃頼よ、爾に趨り附く者を諸の誘惑より護り給へ。

光榮

我が主の至りて無玷なる母よ、我に及ぶ種種の患難より我を救ひ給へ。

今も

爾の神聖なる産を以て世界に救を賜ふ者よ、我を苦難より脱れしめ給へ。

第四歌頌

イルモス、主よ、預言者は爾が降臨の事を聞き、爾が童貞女より生れ、人人に顯れんと欲するを懼れて曰へり、我爾の風聲を聞いて懼れたり、主よ、光榮は爾の力に歸す。

吾が靈の力は大きく弱り、我が諸罪に因りて甚しき暗昧は我に及べり。神の母よ、祈る、光を施す神聖なる雲として、顧みて我を照し給へ。

純潔なる者よ、港として、我が悪の暴風と諸罪の擾亂とを救の穩靜に變じ給へ。諸敵は吼ゆる獅の如く我を嚙まんを欲す、祈る、其滅亡より我を救ひ給へ。

第六調 「スポタ」の晩堂課 二六一

第六調 「スポタ」の晩堂課 二六二

光榮

晝に夜に、陸に海に、何の處に於ても確なる救及び勝たれぬ眩耀たる生神女よ、我を救

ひ給へ、我等「ハリストティアニン」は實に爾を神に重ぎて恃頼とすればなり。

今も

爾は常に我を大なる諸罪及び禍より救ふ者なり。故に我爾主を生みし者に祈りて、爾愛ふる者の確かなる援助に趨り附く、爾の祈禱を以て我を苦難より脱れしめ給へ。

第五歌頌

イルモス、光を世界に輝かししハリストスよ、我夜中より爾に呼ぶ者の心を照して、我を救ひ給へ。

言の純潔なる母よ、我等爾を救の幞幪として讚榮して、人の悪謀を懼れず。

至淨なる者よ、我等爾を壞られぬ垣牆と有ちて、諸の誘惑及び憂愁より救はる。

光榮

潔き者よ、我を悪しき人の舌より救ひ給へ、剃刀の如く磨がれて、我が靈を滅さんと謀ればなり。

今も

我熱切に爾の前に俯伏して祈る、我が造成主の母として、我を圍める患難より釋き給へ。

第六歌頌

イルモス、ハリストスよ、我罪の鯨に吞まれて、爾に呼ぶ、預言者の如く我を淪滅より脱れしめ給へ。

至淨なる者よ、我苦の味を得て、神聖なる甘を厭へり。故に爾に呼ぶ、我に援助を與へ給へ。

諸慾の昏昧は我を朽壞の奴隷と爲せり。祈る、光を生みし女宰よ、我を釋き給へ。

光榮

至淨なる者よ、我爾に依りて憂を免れて、信と愛とを以て爾を讚榮して、爾に祭を捧げん。

今も

不義なる口は我に向ひて開きたり。女宰よ、保護者として我を亟に之より釋き給へ。

次ぎて 主憐めよ、三次。光榮、今も、

坐誦讚詞、第六調。

「ハリストティアニン」等の辱を得ざる轉達、造物主の前に變らざる中保よ、罪なる者の禱の聲を退くる勿れ、仁慈なるに因りて速に我等を助け給へ。蓋我等切に爾に呼

第六調 「スポタ」の晩堂課 二六三

第六調 「スポタ」の晩堂課 二六四

ぶ、生神女よ、爾を尊む者に常に代りて急ぎて禱り、切に求め給へ。

第七歌頌

イルモス、天使は敬虔なる少者の爲に爐に露を出さしめ、ハルデヤ人を焼く神の命は苦しむる者に呼ばしめたり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。

至聖なる童貞女よ、吾が靈を誘ふ者は肥えたる牡牛の如く我を圍めり、親ら我を此等より脱れしめ給へ。

生神女よ、爾は災禍及び憂愁に居る者を熱心に助けて、常に喜悅を與へ給ふ。

光榮

童貞女よ、衆人の壞られぬ幞幪として、我悪事に因りて失望と悲哀とに勝たるる者を護り給へ。

今も

生神女よ、我等は爾の轉達を以て患難憂愁より救はれて、大なる盡されぬ富を獲るな

り。

第八歌頌

イルモス、ハリストスよ、爾は敬虔なる者の爲に焔より露を注ぎ、義人の祭の爲に水より火を出せり、爾は一の望にて萬事を行ひ給へばなり、我等爾を萬世に讃め揚ぐ。生神女よ、我人人の侵害に悩まされて祈る、我を彼等の空しき謀より脱れしめ給へ。女宰よ、我悲哀と誘惑とに勝たれて祈る、此等の害より我を救ひ給へ。

光榮

潔き者よ、我を詭譎なる人、其舌其口、及び暴虐並びに凡の危難より救ひ給へ。

今も

我悪しき風習に誘はれて、答ふべき所なくして生神女に呼ぶ、凡の悪より我を脱れしめ給へ。

第九歌頌

イルモス、天使より慶べよを受けて、己の造成主を生みし童貞女よ、爾を讃め揚ぐる者を救ひ給へ。生神女よ、度生の憂愁の中に我に慈憐を垂れて、爾に趨り附く者を諸難より救ひ給へ。潔き者よ、疑はざる靈を以て爾に趨り附く者の爲に、爾は獨陸に海に實に破られざる帡幪と現れたり。

光榮

讚美たる者よ、我無知に甚しき墮落を以て己を罪の奴隷と爲しし者に、爾の祈祷

第六調 「スポタ」の晩堂課 二六五

第六調 主日の夜半課 二六六

に由りて自由を得しめ給へ。今も

潔き者よ、我爾を堅固なる恃頼及び轉達として獲て、熱信に爾を生神女と崇め讃めて、歌頌を終ふ。

次ぎて「常に福にして」。聖三祝文。「天に在す」の後に本調の小讃詞。其他常例の如し、并に發放詞。



主日の朝、夜半課

生命を施す至聖なる三者の規程、其冠詞は、神よ、第六の歌頌を爾に捧ぐ。ミトロファン

第一歌頌

イルモス、イズライリは陸の如く淵を蹈み渡り、追ひ詰めしファラオンの溺るを見て呼べり、凱歌を神に奉らん。

附唱、至聖なる三者我等の神よ、光榮は爾に歸す。

惟一なる性の變易せざる神體、仁慈にして人を愛する神の三位、我等に諸罪の潔淨を賜ふ主を我等歌ふ。

實在なる惟一者、位に於いて三光なる主、獨一性の神よ、我等を悟らせて、爾の神聖なる光照を獲しめ給へ。

光榮

パウエルは異邦民より生みたる教會を新婦の如く飾りて、爾惟一にして三位なる神に

伏拜するを教へたり、萬物は爾に造られ、爾に依りて爾の中に存在すればなり。

今も、生神女讃詞。

生神女よ、靈智なる日は爾の腹より出でて、我等を三光の神性の光線にて照せり、我等彼を歌ひて、敬虔に爾を崇め讃む。

第三歌頌

イルモス、爾が信者の角を高うし、我等を爾が承認の石に堅めし仁慈の主、吾が神よ、爾と均しく聖なるはなし。

三光の神よ、爾は天の品位を飾りて、聖三の聲を以て爾を歌ふを致せり。彼等と偕に我等爾の仁慈を歌頌する者をも受け給へ。

我等は唯一の變易せざる同性三位の神元を歌ひて、熱切に爾に多くの罪の赦を我等に降さんことを祈る。

光榮

無原の智慧たる父、同性の神の言、及び仁善にして義なる聖神よ、熱切に爾の權柄

第六調 主日の夜半課 二六七

第六調 主日の夜半課 二六八

を歌頌する者を護り給へ、爾は慈憐なればなり。

今も、生神女讃詞。

潔き者よ、我が神は爾の腹の内に實性の人と爲りて、朽壞の草場を空しくし、獨り原祖を先の定罪より釋き給へり。

次ぎて 主憐めよ、三次。

坐誦讃詞、第六調。

主宰神、至仁にして人を愛する主よ、天より臨み、我等の卑微なるを視て、宏恩なるに因りて慈憐を垂れ給へ、蓋我等が犯しし罪惡の赦を受けん爲に他に頼む所なし。祈る、我等と偕に居り給へ、然らば孰も我等に敵せざらん。

光榮、今も、生神女讃詞。

潔き女宰、至淨なる生神女よ、臨みて我等の傷創の痛を視て、我等を憐み、爾の慈憐を注ぎて、我が良心の苦熱を醫して、爾の諸僕に呼び給へ、我爾等と偕にす、然らば孰も爾等に敵せざらん。

第四歌頌

イルモス、尊き教會は淨き心より主の爲に祝ひ、神に適ひて呼び歌ふ、ハリストスは吾が力と神と主なり。

三光の唯一者よ、爾を歌ふ者の思念を高くし、靈と心とを上せて、爾の光照と光輝とを獲しめ給へ。

唯一の形られぬ變易せざる三者よ、我を化して、凡の惡より徳に轉ぜしめて、爾の光線にて照し給へ。

光榮

三位なる唯一者よ、爾は先に意旨を以て睿智にして天使の品位、爾の仁慈に奉事する者を造り給へり。彼等と偕に我の讚美を受け給へ。

今も、生神女讃詞。

生神女永貞童女よ、性の造られざる永在なる神は爾の聖なる腹の内に造られたる人の性を受けて、之を新にし給へり。

第五歌頌

イルモス、至仁なる神の言よ、切に祈る、爾に朝の祈祷を奉る者の靈を爾が神の光にて照して、爾罪の暗より呼び出す眞の神を知らしめ給へ。  
主宰よ、我等は神元の性、衆人の爲に慮りて救を施す、三光にして惟一なる者と思ひて、爾に朝の祈祷を奉りて、罪過の赦を求む。  
無原なる神、父、同永在なる子、及び聖神、一元の三者よ、爾を歌ふ者を堅めて、凡の災難及び憂患より脱れしめ給へ。 光榮

第六調 主日の夜半課 二六九

第六調 主日の夜半課 二七〇

光榮の日よ、常に我を照して、爾の三位なる神性の悦を爲す行に導きて、天の國に與る者と爲し給へ。 今も、生神女讃詞。  
爾の全能の手にて萬物を保ちて之を護る變易せざる神の言よ、爾を生みし生神女の祈祷に由りて、爾を讚榮する者を保ちて護り給へ。

第六歌頌

イルモス、誘惑の猛風にて浪の立ち揚がる世の海を觀て、爾の穩なる港に著きて呼ぶ、憐深き主よ、我が生命を淪滅より救ひ給へ。  
三光の神元よ、爾を歌ふ者に智慧と知識とを賜ひて、仁慈を以て衆に爾の光を施す華麗の光線にて輝かざるを得しめ給へ。 二次。

光榮

本性に於て分れざる光、三光、全能にして、近づかれぬ者よ、忠信に爾の權柄を讃め揚ぐる者の心を照して、其内に神を愛する愛を燃し給へ。

今も、生神女讃詞。

永貞童女よ、全能者及び萬有の主は爾の内に入りて、人人に三光なる神性の一體に叩拜するを教へ給へり。

主憐めよ、三次。

坐誦讃詞、第六調。

仁慈なる父、子、及び聖神よ、我等を眷み給へ。我等塵の者は火焰の者と偕に信を以て爾に伏拜して、爾の權柄を讚榮す、爾の外に他の神を知らざればなり。求む、爾を歌ふ者に呼び給へ、我爾等と偕にす、然らば孰も爾等に敵せざらん。

光榮、今も、生神女讃詞。

讚美たる生神女よ、我等を眷みて、昏みたる心に光照を輝かし給へ。至淨なる者よ、爾の牧群を照し給へ、爾は造成主の母として、欲する所能せざるなければなり。求む、爾に祈る者に呼び給へ、我爾等と偕にす、然らば孰も爾等に敵せざらん。

第七歌頌

イルモス、天使は敬虔なる少者の爲に爐に露を出さしめ、ハルデヤ人を焼く神の命は苦しむる者に呼ばしめたり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。  
位に於て三光なる惟一者よ、爾の神聖なる誠を守りて行はん爲に我に堅き志を與へて、常に熱信に爾に歌はしめ給へ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。  
本性の同一なる者として歌はるる、言ひ難く惟一なる神、位に於て三數を有つ主よ、

第六調 主日の夜半課 二七一

第六調 主日の夜半課 二七二

われら しゅう もろもろ いざないおよ わざわい まも たま  
我等衆を 諸々の誘惑及び災禍より 護り給へ。

光榮

われら どうえいざい せい おい どういつ かみ かくい おい こんこう そのほんしつ たも さんしゃ  
我等は同永在にして性に於て同一なる神、各位に於て混淆せずして其本質を有つ三者の  
単一なる變易なき體を讚榮す。

今も、生神女讃詞。

しじょう もの えいざい かみ ひと あい よ なんじ いさぎよ はら われら じんるい ごうせい う  
至淨なる者よ、永在の神は人を愛するに因りて爾の 潔き腹より我等人類の合成を受け  
て、衆に呼ばしめ給ふ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。

第八歌頌

イルモス、ハリストスよ、なんじ けいけん もの ため ほのお つゆ そそ ぎじん まつり ため みず  
イルモス、ハリストスよ、爾は敬虔なる者の爲に 焔より露を注ぎ、義人の祭の爲に水  
より火を出せり、爾は一の望にて萬事を行ひ給へばなり、我等爾を萬世に讚め揚ぐ。  
どういつせい さんしゃ さんい ゆいいちしゃ われ すみやか しょうじ けつじょう たしゆ よく しょうめつ あた たま  
同一性の三者、三位の唯一者よ、我に速に諸罪の潔淨と多種の慾の消滅とを與へ給へ、  
わ ばんせい なんじ さんえい ため  
我が萬世に爾を讚榮せん爲なり。

さんこう ゆいいちしゃ しじん さんしゃ じれん じんじ かみ およ なんじ しだい さんえい もの  
三光の唯一者、至仁なる三者よ、慈憐仁慈なる神として、凡そ爾の至大なるを讚榮する者  
を 憐み給へ。

光榮

われら えいざい ひかり ちち うま えいざい ひかり ことば い ひかり せいしん とも ねつしん  
我等は永在の光たる父より生れし永在の光たる言を出づる光たる聖神と偕に熱信に  
讚榮して、萬世に讚め揚ぐ。

今も、生神女讃詞。

しじょう もの なんじ ひとびと ため ぜんろう いし ことば よよ かれ ほ あ  
至淨なる者よ、爾は人人の爲に全能の醫師たる言ハリストス、世世に彼を讚め揚ぐる  
しゅうじん げんそ きず いや たま しゆ う たま  
衆人を原祖の傷創より醫し給ふ主を生み給へり。

第九歌頌

イルモス、天使の品位すら見るを得ざる神は、人見る能はず、唯爾至淨の者に藉りて人體  
と ことば ひとびと あらわ たま われら くれ あが てんぐん とも なんじ ほ あ  
を取りし言は人人に現れ給へり。我等彼を崇めて、天軍と偕に爾を讚め揚ぐ。

しゅさい ひんい なんじ かび こうえい み あた つばさ おお た  
主宰よ、ヘルウィムの品位は爾の華美の光榮を見る能はずして、翼に蔽はれて、絶えず  
せいさん うた たてまつ なんじ ゆいいち しんげん さんい けんべい さんえい  
聖三の歌を奉りて、爾の唯一なる神元の三位の權柄を讚榮す。

く ひ だいじんじ さんい ゆいいちしゃ われら なんじ しょうく ところ こうしょう たま たましい  
暮れざる日、大仁慈にして三位なる唯一者よ、我等爾の諸僕の心に光照を賜ひて、靈  
を照し、多くの罪より脱れしめて、爾の不朽なる生命に與らしめ給へ。

光榮

どういつそん さんじつ ひかり こうみょう ほどこ じつざい しんせい しん もつ なんじ うた もの てら くら  
同一尊なる三日の光、光明を施す實在の神性よ、信を以て爾を歌ふ者を照して、暗き  
あくじ のが しじん しゆ なんじ いた こうめい すまい え たま  
悪事より脱れしめ、至仁の主として、爾の至りて光明なる居處を獲しめ給へ。

今も、生神女讃詞。

さんび どうていじよ なんじ こ さき えいち もつ ひと つく のち く もの なんじ よ  
讚美たる童貞女よ、爾の子は先に睿智を以て人を造り、後に朽ちたる者を爾に因り

第六調 主日の夜半課 二七三

第六調 主日の夜半課 二七四

あらた およ しん もつ なんじ まこと しょうしんじよ さんえい もの しんせい ひかり き かがやき  
て新にして、凡そ信を以て爾を眞の生神女と讚榮する者を神聖なる光の滅えざる輝煌  
に満て給へり。

次にグリゴリイ シナイトの聖三讃歌、「爾神言を讚榮するは」、及び其他夜半課の式。本  
書の末に載す。



主日の早課

六段の聖詠畢りて「主は神なり」、第六調に依りて歌ひ、後主日の讚詞、「天使の軍爾の墓に現れしに」、二次。光榮、今も、生神女讚詞、「爾は恩寵を蒙れる者を」。次に聖詠經の常例の誦讀。

第一の誦文の後に主日の坐誦讚詞、第六調。

墓は啓かれ、地獄は哭くに、マリヤは隠れたる使徒等と呼べり、葡萄園の工作者よ、出でて、復活の詞を傳へよ、世界に大なる憐を賜ふ主は復活し給へり。

句、主我が神よ、起きて、爾の手を擧げよ、苦しめらるる者を永く忘るる母れ。

主よ、マリヤ「マグダリナ」は爾が墓の前に立ちて哭き、爾を園丁なりと意ひて、呼びて曰へり、何處に永遠の生命を置きたる、何處にヘルウィムの寶座に坐する者を隠したる、蓋彼を守る者は恐懼に由りて死せし如くなれり。或は我が主を我に予へよ、或は我と偕に呼べ、死者の中に在りて死者を復活せしめし主よ、光榮は爾に歸す。

光榮、今も、生神女讚詞。

生神女よ、ゲデオンは爾の胎孕を豫象し、ダウィドは爾の産を述ぶ。蓋雨が羊の毛に於ける如く、言は爾の腹に降りしに、爾は、恩寵を蒙れる聖なる地よ、種なくして世界の爲に拯救なるハリストス、我等の神を生じ給へり。

第二の誦文の後に主日の坐誦讚詞、第六調。

生命は墓の内に臥し、印は石の上に貼けられ、兵卒は寝ぬる王の如くハリストスを守れり。主は見えずして己の敵を敗りて、復活し給へり。

句、主よ、我心を盡して爾を讃め揚げ、爾が悉くの奇跡を傳へん。

不死の主よ、イオナは爾の墓を豫象し、シメオンは神聖なる復活を述ぶ。蓋爾は、ハリストス我等の神よ、死者として墓に降りて、地獄の門を破り、暗昧に居る者を照し、朽壞に與からざる主宰として復活して、世界に救を賜へり。

光榮、今も、生神女讚詞。

第六調 主日の早課 二七五

第六調 主日の早課 二七六

生神童貞女よ、爾の子、甘んじて十字架に釘せられ、死より復活せしハリストス我等の神に、我等の靈の救はれんことを祈り給へ。

ネポロチニの後に應答歌、第六調。

ハリストスよ、爾は神なるにより、生命を施す自由の死にて地獄の門を破りて、我等の爲に古の樂園を開き、死より復活して、我等の生命を朽壞より救ひ給へり。

品第詞、第六調。第一倡和詞。毎句復唱す。

言よ、我目を天に爾に擧ぐ、我を恵みて、爾の爲に生くるを賜へ。

言よ、我等賤しき者を憐みて、爾の用に適する器と爲し給へ。

光榮、

聖神には救の基備れり、彼堪ふる者に嘘けば、速に之を地より擧げ、之を飛ばしめ、之を長ぜしめて、上に升らせ給ふ。 今も、同上。

第二倡和詞

若し主我等の中にあらずば、我等誰も敵の攻撃に勝つこと能はざらん、蓋勝つ者は此處より擧げらる。

言よ、願はくは我の靈は小禽の如く彼等の齒にて捕はれざらん、嗚呼哀しい哉、我罪

を嗜む者は如何にして敵より脱るを得ん。

光榮

聖神より衆人に成聖、慈恵、知識、平安、并に降福は賜はる、蓋彼は父及び言と等しく行動する者なり。 今も、同上。

第三倡和詞

主を頼む者は敵彼等を懼れ、衆人は奇とす、蓋彼等は上を仰ぎ見る。 救世主よ、義なる嗣業は爾を扶助者と有ちて、己の手を不法に伸べず。

光榮

聖神の權柄は萬有にあり、上なる軍は下なる凡の呼吸ある者と偕に彼に伏拜す。

今も、同上。

提綱、第六調。

主よ、爾の力を興し、來りて我等を救ひ給へ。

句、イズライリの牧者よ、耳を傾けよ、イオシフを羊の如く導く者よ、己を顯せ。

「凡そ呼吸ある者」。句、「神を其聖所に讃め揚げよ」。

主日の福音經、「ハリストスの復活を見て」。第五十聖詠。及び其他次第に循ふ。

主日の規程、第六調。

第六調 主日の早課 二七七

第六調 主日の早課 二七八

第一歌頌

イルモス、イズライリは陸の如く淵を踏み渡り、追ひ詰めしファラオンの溺るを見て呼べり、凱歌を神に奉らん。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

仁慈なるイイススよ、爾は十字架に伸べたる手を以て、父の恵みを萬有に満たし給へり。故に我等皆凱歌を爾に奉る。

死は命を受けし婢の如く恐れて、爾生命の主宰に就きたり、爾は是を以て我等に死せざる生命と復活とを與へ給ふ。

生神女讚詞

潔き者よ、爾は己の造物主を受けて、彼が其自ら欲せし如く、爾の種なき腹より量り難く人性を取り給ふによりて、實に造物の女宰と顯れたり。

又十字架復活の規程

第一歌頌、イルモス、「昔逐ひつめし窘迫者を」。

審判者は審判せらるる者として、甘じてピラトの不法なる審判座の前に立ち、地と天の者との戦く神は不義なる手にて面を批たる。

主宰救世主よ、爾は己の神聖なる手を爾の生を施す至淨なる十字架に伸べて、異邦民を集めて爾を知らしめ、爾の光榮なる釘刑に伏拜せしむ。

十字架生神女讚詞

ハリストス救世主よ、至りて無玷なる者は涙を流して、爾の十字架の側に立ち、爾の脅より滴る血を見て、爾の無量なる慈憐を讚榮せり。

又至聖なる生神女の規程、其冠詞は、神の母よ、我に豊なる恩寵を賜へ。

イルモス、「イズライリは陸の如く淵を踏み渡り」。

エワは禁ぜられたる樹の食を食ひて、呪詛を入れたり、潔き者よ、爾は祝福の原因たるハリストスを生みて、之を釋き給へり。

神聖なる電に因りて珍珠としてハリストスを生みし潔き者よ、我が諸慾の昏昧と諸罪の紛擾とを爾の光の輝煌を以て散じ給へ。

イアコフは靈智なる目を以て異邦民の恃頼なる神、爾より身を取りて、爾の轉達を以て我等を救ふ者を奥密に預見せり。

至淨なる者よ、イウダの族よりする率いる者盡きたるに、爾の子及び神は率いる者として出でて、今實に地の四極に王と爲り給へり。

カダワシヤ  
共頌、「我が口を開きて」。

### 第三歌頌

第六調 主日の早課 二七九

第六調 主日の早課 二八〇

イルモス、爾が信者の角を高くし、我等を爾が承認の石に堅めし仁慈の主、吾が神よ、爾と均しく聖なるはなし。

造物は神が身にて釘せらるるを見、畏れて崩れんとせり、然れども我等の爲に釘せられし者の全能の手にて堅く保たれたり。

詛はれたる死は死を以て壞られ、息なくして偃す、蓋神聖なる生命の之に著くに堪へずして、強き者は殺され、復活は衆人に賜はる。

### 生神女讚詞

潔き者よ、爾が神妙なる産の奇跡は悉くの天然の法に超ゆ、蓋爾は性に超えて神を胎内に孕み、生みて後恒に童貞女に止まり給ふ。

又 イルモス、「造物は爾、全地を寄する所なくして」。

三日墓の中に在りし主よ、爾は生を施す爾の復活を以て先に殺されし者を復活せしめ給へり。彼等は定罪を釋かれて、喜び樂しみて呼ぶ、主よ、爾は拯救として來り給へり。

我が救世主よ、光榮は爾の復活に歸す、蓋爾は全能者として我等を地獄の朽壞及び死より救ひ給へり。故に我等歌ひて云ふ、人を愛する主よ、爾の外に聖なるはなし。

### 生神女讚詞

至聖至潔なる者よ、爾は爾より生れし者が戈を以て傷つけられしを見て、心に傷つけられて、驚きて云へり、子よ、至りて不法なる民は何をか爾に報いたる。

又 イルモス、「爾が信者の角を高くし」。

至りて潔き神の母よ、仁慈なる主は朽壞と死とに屬する我が身を言ひ難く爾の腹より取りて、之を不朽の者と爲して、永遠に己に合せ給へり。

童貞女よ、天使の品位は神が爾より身を取り給ふを見て、驚き懼れて、爾を神の母として黙さざる歌を以て尊む。

神の母よ、預言者ダニイルは爾を靈智なる山と見て驚きたり、蓋此より石は手に由らずして斫られて、其力を以て悪鬼の宮を碎きたり。

至淨なる童貞女よ、人の言及び舌は宜しきに合ひて爾を讚美する能はず、蓋生を施すハリストスは種なくして爾より身を取るを喜び給へり。

### 第四歌頌

イルモス、尊き教會は淨き心より主の爲に祝ひ、神に適ひて呼び歌ふ、ハリストスは吾が力と神と主なり。

ハリストスよ、眞の生命の木は華さけり、蓋十字架は樹てられて、爾の朽ちざる脅腹

第六調 主日の早課 二八一

第六調 主日の早課 二八二

より流るる血と水とに潤されて、我等の爲に生命を生じたり。既に蛇は諷りにて我に神と爲らんことを勧めず、人の性を神の性に合せしハリストスは今我が爲に障礙なき生命の道を開きたればなり。

### 生神女讃詞

生神女・永貞童女よ、爾が神妙なる産の奥義は地に在る者にも天に在る者にも實に言ひ難く悟り難し。

又 イルモス、「アウクムは爾が十字架に於ける」。

ハリストスよ、我等は爾の尊き十字架及び釘と聖なる戈、葦と棘の冠を尊む、此等に由りて地獄の朽壞より脱るるを得たればなり。

救世主言よ、墓は爾甘じて我等の爲に死者と爲りし者を受けたれども、敢て爾を留むること能はざりき、蓋爾は神として復活して、我等人類を救ひ給へり。

### 十字架生神女讃詞

神の母、救世主ハリストスを人人の爲に生みし永貞童女よ、我等信を以て爾の神聖なる幟に趨り附く者を禍及び苦より脱れしめ給へ。

又、イルモス、「尊き教會は淨き心より」。

至淨なる者よ、我等爾に因りて救はれし者は爾至りて無玷なる童貞女を歌ひて、敬虔に呼ぶ、祝讃せらるる哉神を生みし永貞童女や。

至福なる童貞女よ、爾は生命の暗昧に居る者の爲に暮れざる光、身にて輝く者を生みて、爾永貞童女を歌ふ者の爲に歡喜を流し給へり。

至聖なる永貞童女よ、爾に依りて恩寵は華さき、律法は絶えたり、爾潔き者が我等に赦罪を賜ふ主を生みたればなり。

至りて潔き者よ、木の果を味ふことは我を死者と爲し、爾より現れし生命の木は我を復活せしめて、樂園の福の嗣業者と爲せり。

### 第五歌頌

イルモス、至仁なる神の言よ、切に祈る、爾に朝の祈禱を奉る者の靈を爾が神の光にて照して、爾罪の暗より呼び出す眞の神を知らしめ給へ。

主宰神の言よ、ヘルワィムは今我に道を許し、焰の劍は我が前より退く、爾眞の神が盜賊の爲に樂園の道を開き給ひしを見たればなり。

主宰ハリストスよ、我は既に地に歸るを畏れず、蓋爾は大仁慈に因りて、爾の復活を以て、我忘れられし者を地より不朽の高處に升せ給へり。

### 生神女讃詞

仁慈なる世界の女幸よ、中心より爾を生神女と承け認むる者を救ひ給へ、我等爾神

第六調 主日の早課 二八三

第六調 主日の早課 二八四

の眞の母を勝たれぬ轉達として有てばなり。

又 イルモス、「ハリストスよ、イサイヤは我等の爲に」。

至仁なる主よ、原祖はエデムの中に木の食に誘はれ、爾の戒に背きて、朽壤に陥りたり。然れども爾は、救世主よ、父に順ふ者として、十字架を以て復彼を始の華美に升せ給へり。

仁慈なる主よ、爾の死に由りて死の權は滅され、我等に生命の泉は注がれ、不死は賜はりたり。故に我等熱信に爾の葬及び復活に伏拜す、是を以て爾は神として全世界を照し給へり。

十字架生神女讃詞

純潔なる者よ、天に居る主、萬有の造成者は言ひ難く爾の腹に入りて、爾を天より最高く、無形の品位より最聖なる者として榮し給へり。故に我等地に在る者は今爾を讃揚す。

又 イルモス、「至仁なる神の言よ、切に祈る」。

讚美たる者よ、爾は潔淨を以て明に輝きて、主宰の神聖なる居處と爲れり、蓋爾は獨神の母と現れて、彼を嬰兒として抱き給へり。

貞潔に封印せられたる潔き者よ、爾は至りて美しき爾の靈の靈智なる華美を有ち、神の聘女と爲りて、潔淨の光を以て世界を照し給へり。

爾潔き神の母を承け認めざる不虔者の群は泣くべし、蓋爾は我等の爲に神の光の門と現れて、諸罪の暗を散じ給へり。

第六歌頌

イルモス、誘惑の猛風にて浪の立ち揚がる世の海を觀て、爾の穩なる港に着きて呼ぶ、憐深き主よ、我が生命を淪滅より救ひ給へ。

主宰よ、爾釘うたる時、釘にて我等が蒙れる詛を滅し、戈にて脅を刺さる時、アダムの書券を破りて、世界を釋き給へり。

アダムは欺き倒されて、地獄の淵に落されしに、爾本性の神は、憐に因りて、之を尋ねんが爲に降り、肩に荷ひて、共に復活せしめ給へり。

生神女讃詞

人人の爲に舵師及び主を生みし至淨なる女宰よ、我が愆の波たつ烈しき煩亂を鎮めて、我が心に穩なるを得しめ給へ。

又 イルモス、「イオナは鯨の腹に包まれたれども」。

エウレイの民はハリストスを殺し及び預言者を殺す者と爲れり。蓋昔眞實の奧密なる光線たる預言者を殺すを懼れざりし如く、斯く今も彼等が其時に傳へし主を妬に因りて殺せり。然れども彼の殺さるるは我等の爲に生命と爲れり。

第六調 主日の早課 二八五

第六調 主日の早課 二八六

救世主よ、爾は執はれたれども、墓の中に留められざりき。蓋爾は、言よ、甘じて死を嘗めたれども、不死なる神として復活して、地獄にある俘囚を己と共に起し、女等に先の哀しみに易へて喜を賜へり。

生神女讃詞

潔き者は言へり、嗚呼吾が子よ、爾は神性を以てダウイドに人の子より美わしき者と現れたれども、苦の時に爾の身の状は人人より卑しくして貧しき者と爲れり。嗚呼吾が神よ、爾の國の權柄を以て諸敵の力を破りて、墓より起き給へ。

又 イルモス「誘惑の猛風にて」。

母童貞女よ、預言者の中に大なるモイセイは爾を匱と案、燈臺及び「マンナ」の壺と預象して、形を以て至上者が爾より身を取ることを徴せり。

嗚呼女幸よ、爾の果に觸れて死は殺され、アダムの定罪の朽壞は空しくなれり、蓋爾は朽壞より爾を歌ふ者を救ふ生命を生み給へり。

讚美たる童貞女よ、智慧と悟りに超えて爾より生れし神及び救世主の恩寵の我に現れしに、律法は弱り、影は過ぎ去れり。

小讚詞、第六調。

生命の原因たるハリストス神は生命を施す手を以て死せし者を暗き谷より出して、復活を人類に賜へり、衆人の救世主、復活と生命、及び衆人の神なればなり。

同讚詞

生命を賜ふ主よ、我等信者は爾の十字架と葬とを歌ひて伏拜す。蓋爾は不死なる者よ、全能の神として、地獄を縛り、死者を己と偕に復活せしめ、死の門を破り、地獄の權を滅し給へり。故に我等地に生るる者は愛を以て爾復活して、滅亡を爲す敵の權を空しくし、爾を信ずる衆を復活せしめ、世界を蛇の毒及び敵の誘惑より救ひ給ひし主を讚榮す、爾は衆人の神なればなり。

第七歌頌

イルモス、天使は敬虔なる少者の爲に爐に露を出さしめ、ハルデヤ人を焼く神の命は苦しむる者に呼ばしめたり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

主宰よ、日は爾の苦を嘆きて晦冥を衣、全地は晝に光を失ひて呼べり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

ハリストスよ、地獄は爾の降臨に因りて光を衣、原祖は樂に満たされて祝ひ、喜

第六調 主日の早課 二八七

第六調 主日の早課 二八八

びて呼べり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

生神女讚詞

母童貞女よ、爾に依りて明なる光は全世界に輝けり、蓋爾は萬有の造成主神を生み給へり。純潔なる者よ、彼に大なる憐を我等信者に降さんことを求め給へ。

又 イルモス、「言ひ盡されぬ哉奇蹟や」。

嗚呼驚くべき現象や、イズライリをファラオンの奴隸より救ひし主は彼より甘じて十字架に釘せられて、諸罪の桎梏を解き給ふ。我等信を以て彼に歌ふ、贖罪主神よ、爾は崇め讃めらる。

至りて不法なる者の不虔の諸子が爾救世主を髑髏の處に十字架に釘せしに、爾は銅の門と柱とを壞り給へり、我等、贖罪主神よ、爾は崇め讃めらると歌ふ者の救の爲なり。

生神女讚詞

潔き童貞女よ、爾の産はエワを古の詛より自由にし、アダムを釋き給へり。故に我等は諸天使と偕に爾を尊み、爾の子に歌ひて呼ぶ、贖罪主神よ、爾は崇め讃めらる。

又 イルモス、「天使は敬虔なる少者の爲に」。

爾の産を前兆する三人の少者を爐は焚かざりき。蓋神聖なる火は爾を焚かずして、爾の内に入りて、衆に呼ばんことを教へたり、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

純潔なる母よ、爾が預言せし如く、四極は爾を讃頌し、且爾の光の光線に照されて、  
恩寵に依りて歌ひて呼ぶ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。  
神の母よ、至りて凶悪なる蛇は滅を致す齒を我の内に刺せり。然れども爾の子は之を折  
きて、我に力を與へて呼ばしむ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。  
神福なる者よ、爾は獨人性の潔淨なり、蓋ヘルウィムの肩に坐する神を爾の手に抱き  
て呼ぶ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

第八歌頌

イルモス、ハリストスよ、爾は敬虔なる者の爲に焰より露を注ぎ、義人の祭の爲に水  
より火を出せり、爾は一の望にて萬事を 行ひ給へばなり、我等爾を萬世に讃め揚ぐ。  
神の言よ、昔諸預言者を殺しレイウデヤ民は、今猜によりて、爾を十字架に擧げて、神  
を殺す者となれり。我等爾を萬世に讃め揚ぐ。

第六調 主日の早課 二八九

第六調 主日の早課 二九〇

ハリストスよ、爾は天を棄てずして地獄に降りて、膿汁に溺れ臥す人を己と偕に興し給  
へり。故に我等爾を萬世に讃め揚ぐ。

生神女讃詞

童女よ、爾は光に因りて光を施す言を孕み、量り難く之を生みて、讃榮を得たり、  
聖神爾の内に入りたればなり。故に我等爾を萬世に讃め歌ふ。

又 イルモス、「天よ、畏れて戦け」。

聴く者は驚かざるなし、如何ぞ至上者は甘じて地に降り、十字架と葬とを以て地獄の  
力を破りて、衆を起して呼ばしむる、童子よ、崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世  
に尊み崇めよ。

地獄の苛虐は熄み、其國はひびたり、蓋萬有の神は地に十字架の上に擧げられて、其權力  
を空しくし給へり。童子よ、彼を崇め讃めよ、司祭よ、讃め歌へ、民よ、萬世に尊み崇  
めよ。

嗚呼ハリストスよ、爾の仁愛は言ひ難く、恩恵は悟り難し、蓋爾は我が地獄の囹圄に滅  
ぶるを見て、苦を受けて我を救ひ給へり。故に我等爾萬有の主宰を讃め揚げて、萬世  
に尊み崇む。

又 イルモス、「ハリストスよ、爾は敬虔なる者の爲に」。

至淨なる者よ、爾の子は爾を金繡の衣を以て妝はれたる女王として、聖神の光に輝  
かして、己の右に立て給へり。我等彼を萬世に讃め揚ぐ。

一の望にて世界を造りし主は上より人性を改め造らんと望みて、之を爾の至淨なる胎  
より取り給へり。我等彼を萬世に讃め揚ぐ。

童貞の光にて輝ける至淨なる者よ、爾は言の我人に結合するに因りて神の居所と爲り  
給へり。故に我等爾を萬世に讃め歌ふ。

潔き者よ、金の燈臺は爾を前兆せり、蓋爾は己の睿智にて萬有を照す近かれぬ光  
を言ひ難く受け給へり。故に我等爾を世世に讃め歌ふ。

次ぎて生神女の歌を歌ふ、「我が靈は主を崇め」、附唱と共に、「ヘルウィムより尊く」。

第九歌頌

イルモス、天使の品位すら見るを得ざる神は、人見る能はず、唯爾至淨の者に藉りて人體

と ことば ひとびと あらわ たま われら かれ あが てんぐん とも なんじ ほ あ  
を取りし言は人人に現れ給へり。我等彼を崇めて、天軍と偕に爾を讃め揚ぐ。  
かみ ことば わ きゆうせいしゅ なんじ くるしみ あずか もの み くるしみ あずか ひと くるしみ  
神の言、吾が救世主よ、爾は苦に與らざる者にして、身にて苦に與りて、人を苦  
と たま なんじ ひとり むよく ぜんのう  
より釋き給へり、爾は獨り無慾にして全能なればなり。  
しゅさい なんじ し いたみ う なんじ からだ きゆうかい あずか もの まも なんじ いのち  
主宰よ、爾は死の傷を受けて、爾の體を朽壞に與らざる者として護れり、爾が生命

第六調 主日の早課 二九一

第六調 主日の早課 二九二

ほどこ しんせい たましい じごく のこ なんじ ねむり お ごと ふっかつ われら とも  
を施す神聖なる靈は地獄に遺されずして、爾は寢より興くるが如く復活し、我等を共  
におこ たま  
に興し給へり。 **聖三者讃詞**  
われら しゅうじんきよ くち もつ かみちち どう わげん こ ほ あ しせいしん い がた しえい のうりよく  
我等衆人淨き口を以て神父、同無原の子を讃め揚げ、至聖神の言ひ難き至榮なる能力を  
とうと あが なんじぜんのう さんしや ゆいいち わか もの  
尊み崇む、爾全能の三者は惟一にして分れざる者なればなり。

又 イルモス、「母よ、我爾が種なくして孕みし子」。

いのち たま なんじ ししや はか くだ じごく ちから やぶ そのの  
生命を賜ふハリストスよ、爾は死者として墓に下りたれども、地獄の力を破り、其呑み  
ししや おのれ とも おこ かみ およ しん あい もつ なんじ さんよう もの ふっかつ たま  
たる死者を己と偕に起して、神として凡そ信と愛とを以て爾を讃揚する者に復活を賜へ  
り。

ぞうぶつ よろこ ゆり はな ごと さか けだし かがみ し お たま  
造物は歡ぶべし、百合の花の如く榮ゆべし、蓋ハリストスは神として死より起き給へり。  
われら いまよ し なんじ はり いずこ あ じごく なんじ ちから いずこ あ われら つの  
我等今呼ばん、死よ、爾の刺は安にか在る、地獄よ、爾の勝は安にか在る、我等の角  
たか しゅ なんじ ち たお じれん しゅ  
を高くせし主は爾を地に倒せり、慈憐の主なればなり。

十字架生神女讃詞

しじょう じよさい なんじ ばんゆう たち しゅ たも われら たたか てき て すく しゅ おさなご て  
至淨なる女宰よ、爾は萬有を保つ主を保ち、我等を戰ふ敵の手より救ふ主を嬰兒として手  
いだ われら あく おとしあな ひ あ しゅ じゅうじか き あ もの み  
に抱き、我等を悪の阱より引き上げし主を十字架の木に擧げらるる者として見る。

又 イルモス、「天使の品位すら」。

い い ほし しんせい こうせん かがや くらやみ うち お もの てら じゅんけつ  
イアコフより出でたる星は神性の光線を輝かして、幽暗の中に居る者を照せり。純潔な  
もの こ なんじ じんたい と かみことば われら かれ てら てんぐん とも  
る者よ、此れ爾より人體を取りしハリストス神言なり。我等は彼に照されて、天軍と偕  
なんじ ほ あ  
に爾を讃め揚ぐ。

いさぎよ どうていじよ われなんじ ちから おんちよう かた ちゅうしん ねつせつ なんじ うた ささ  
潔き童貞女よ、我爾の能力と恩寵とに堅められて、中心より熱切に爾に歌を捧げたり。  
しんぶく もの これ い ふきゆう ほうぞう なんじ こうめい おんちよう むく たま  
神福なる者よ、之を納れて、不朽の寶藏より爾の光明なる恩寵を報い給へ。

どうていじよ なんじ しんせい はた あらわ ことば これ もつ にくたい ころも お わ すがた つく これ  
童貞女よ、爾は神聖なる機と現れ、言は此を以て肉體の衣を織り、我が像を造りて、之  
き およ きよ ところ もつ なんじ ほ もの すく たま  
を衣て、凡そ清き心を以て爾を讃め揚ぐる者を救ひ給へり。

じゅんけつ しゅうしんじよ なんじ い がた さと がた さん よ いま ししや ふっかつ たま けだし  
純潔なる生神女よ、爾の言ひ難く悟り難き産に由りて今死者に復活は賜はりたり、蓋  
せいめい なんじ よ み き しゅう かがや あらわ し ほろぼ  
生命は爾に藉りて身を衣て、衆に輝きて、顯に死を滅せり。

カタワシヤ エクサポステイラライ  
共頌の後に小聯禱。次ぎて主我等の神は聖なり、三次。早課の 差遣詞。

「凡そ呼吸ある者」に主日の讃頌、第六調。

かれら ため しろ しんぱん おじこな ため こ さかえ そのことごと せいじん あ  
句、彼等の爲に記されし審判を行はん爲なり、斯の榮は其悉くの聖人に在り。  
しゅ なんじ じゅうじか なんじ ひとびと ため せいめい ふっかつ われら これ たの なんじふっかつ わ  
主よ、爾の十字架は爾の人人の爲に生命と復活なり、我等之を頼みて、爾復活せし吾  
かみ うた われら あわれ たま  
が神を歌ふ。我等を憐み給へ。

句、神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ。

第六調 主日の早課 二九三

第六調 主日の早課 二九四

しゅさい なんじ ほうわり じんろい ため らくえん ひら われら きゆうかい のが なんじふっかつ わ かみ  
主宰よ、爾の葬は人類の爲に樂園を開けり、我等朽壞より逃れて、爾復活せし吾が神  
うた われら あわれ たま  
を歌ふ。我等を憐み給へ。

句、其權能に依りて彼を讃め揚げよ、其至 嚴 なるに依りて彼を讃め揚げよ。  
死より復活せしハリストスを父及び聖神と偕に歌ひて、彼に呼ばん、爾は我等の生命と復活なり。我等を憐み給へ。

句、角の聲を以て彼を讃め揚げよ、琴と瑟とを以て彼を讃め揚げよ。  
ハリストスよ、爾は録されし如く、三日目に墓より復活して、我等の原祖を己と偕に興し給へり。故に人類は爾を讃榮して、爾の復活を崇め歌ふ。

又讃頌、アナトリイの作。

句、鼓と舞とを以て彼を讃め揚げよ、絃と簫とを以て彼を讃め揚げよ。  
主よ、爾の復活の秘密は大にして畏るべし、蓋花婿が宮より出づる如く、爾は墓より出でて、死を以て死を滅し給へり、アダムを釋かん爲なり。故に人を愛する主よ、我等に施す爾の慈憐を、天に於て諸天使は慶賀し、地に於て人人は讃榮す。

句、和聲の鉞を以て彼を讃め揚げよ、大聲の鉞を以て彼を讃め揚げよ。凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ。

嗚呼至りて不法なるイウデヤ人よ、封印と兵卒に給へし銀とは安にか在る。實は竊まれしにあらざ、彼は權能者として復活せり。爾等はハリストス、苦を受け、葬られて、死より復活せし光榮の主を諱みて、自ら耻を得たり。我等は彼に伏拜す。

句、主我が神よ、起きて、爾の手を擧げよ、苦しめらるる者を永く忘るる母れ。

イウデヤ人よ、墓は閉され、爾等は番兵を置き、封印を貼けしに、如何ぞ竊まれたる。戸の閉されたるに、王は出でたり。爾等は彼を或は死者として出せ、或は神として伏拜して、我等と偕に歌へ、主よ、光榮は爾の十字架及び爾の復活に歸す。

句、主よ、我心を盡して爾を讃め揚げ、爾が悉くの奇跡を傳へん。

主よ、攜香女は泣きて、爾の生命を蘊むる墓に至り、香料を攜へて、爾の至淨なる體に擧らんと欲せしに、光る天使、石の上に坐する者に遇へり。彼は之に述べて曰ふ、何ぞ膏より世界に生命を流しし者の爲に泣ける、何ぞ不死の者を死者の如く墓に尋ぬる。速に往きて其門徒に彼の光榮なる復活の全世界の歡喜を告げよ。救世主よ、此を以て我等をも照して、潔淨と大なる憐とを與へ給へ。

第六調 主日の早課 二九五

第六調 主日の早課 二九六

光榮、早課の福音の讃頌。今も、「生神童貞女よ、爾は至りて讃美たる者なり」。大詠頌。

次ぎて復活の讃詞。

主よ、爾は墓より復活して、地獄の鎖を壊り、死の定罪を滅し、衆人を敵の網より救へり。獨大慈憐なる者よ、爾は使徒に現れて、彼等を傳教に遣し、彼等に因りて爾の平安を世界に賜へり。

次ぎて聯禱、及び發放詞。



聖體禮儀の眞福詞、第六調。

神我が救世主よ、爾の國に來らん時我を憶ひて、我を救ひ給へ、爾獨人を愛する主なればなり。

句、心の清き者は福なり、彼等神を見んとすればなり。  
木に縁りて誘はれしアダムを爾は亦十字架の木に縁りて救ひ、主よ、爾の國に於て我を憶ひ給へと呼ぶ盗賊をも救ひ給へり。

句、和平を行ふ者は福なり、彼等神の子と名づけられんとすればなり。  
地獄の門と柱とを壊らし生命を賜ふ救世主よ、爾は凡そ光榮は爾の復活に歸すと呼ぶ者を復活せしめ給へり。

句、義の爲に窘せらるる者は福なり、天國は彼等の有なればなり。  
己の葬にて死を虜にし、己の復活にて萬有を喜に満たしし主よ、我を憶ひ給へ、爾は仁慈の主なればなり。

句、人我の爲に爾等を語り、窘逐し、爾等の事を偽りて諸の悪しき言を言はん時は、爾等福なり。

攜香女は墓に來りて、天使の呼ぶを聽けり、ハリストスは復活して、萬有を照し給へり。

句、喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。  
我等衆同心にハリストス、十字架の木に釘せられて、世界を迷より救ひし主を歌はん。

光榮、聖三者讃詞。

我等父と子と聖神を讃揚して曰ふ、聖三者よ、我等の靈を救ひ給へ。

今も、生神女讃詞。

末日に言ひ難く孕みて己の造成主を生みし童貞女よ、爾を讃め揚ぐる者を救ひ給へ。

提綱、第六調。

第六調 主日の早課 二九七

第六調 主日の早課 二九八

主よ、爾の誘を救ひ、爾の業に福を降し給へ。句、主よ、我爾に呼ぶ、私の防固よ、我が爲に黙す母れ。

「アリルイヤ」、至上者の覆の下に居る者は、全能者の蔭の下に安ず。句、主に謂ふ、爾は私の避所、私の防禦、私が頼む所の私の神なりと。

